



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2021.12.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

ほめる？ほめない？子どもへのことばかけ

子どもは「ほめて育てる」べきか「ほめないで育てる」べきか。最近は「ほめない子育て」をテーマにした本が目につくようになりました。

子育てやしつけにはトレンドがあるので、また変わるかもしれません。しかし原則は変わらないのでしょう。

問われているのは「ほめる」行為ではなく、その結果です。すなわち「期待」。

何かをさせるためにほめる行為は、外発的動機付けと呼ばれます。にんじんをぶら下げるといわけです。いつか子どもに見破られます。あるいは依存心の強い子どもに育つかもかもしれません。

大切なのは、「ほめる」より「認める」ことです。ぐだいていえば、「おおげさにほめない」となりましようか。子どもの行動を観察し、そのプロセスを含めて「**認める、承認する**」といった態度です。

私にはこんな経験があります。

ちょっとやんちゃな年長児Aくんがいました。あまり私になついてくれません。どうにかして気を引こうと下心がありました。

ある日Aくんが私のもとに駆け付けてきました。手にはピカピカのドロ団子。

「ねえ、みてみて！」

私はここぞとばかり、

「すごいなAくん！」

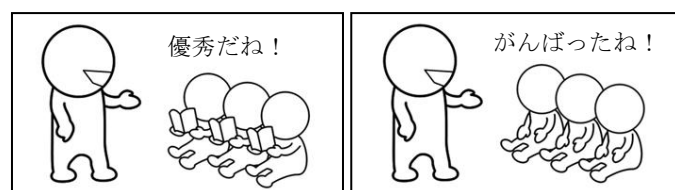
といきおいよくほめました。しかしAくんは急に不機嫌になるのです。

「ちがうよ、すごいのはボクじゃなくて団子だよ」

しまった、見透かされたと思いました。この場合は「すごい団子だね、上手に作ったね！」とほめるべきでした。鋭い子どもの感性にたじたじになった記憶です。

★「能力」ではなく「努力」をほめる

スタンフォード大学のキャロル・ドゥエックの研究を紹介します。数百人の子ども(小学5, 6年)に知能検査を行います。その結果を受けて、グループを2つに分けてほめました。



A: 能力をほめる
「頭いいね！」

B: 努力をほめる
「よくがんばったね！」

その後、経過を観察すると…「A: 能力」グループに対し、次に取り組む問題を選ばせます。すると失敗を恐れて、難しい問題・新しい問題への挑戦を避けようとなりました。一方「B: 努力」グループのほとんどが、新しい問題に挑もうとしたのです。

やがて「A: 能力」グループの成績は下降し、自信も失っていきました。一方「B: 努力」グループの方は、難問にも挑戦し続け、結果的に成績も上がりました。「能力をほめる」と成績が下がり、「努力をほめる」と上がる。これはなぜでしょうか？

子どもに与えるメッセージには表と裏があり

ます。「能力をほめる」ことは「評価されている」というメッセージを与えます。一方「努力をほめる」ことは「応援されている」と子どもは受け止めるのです。

表のメッセージ	裏のメッセージ
能力をほめる	親・先生から 評価 されている
努力をほめる	親・先生から 応援 されている

つい子どもに「頭いいね！」「賢いね！」と口に出してしまうことがあります。しかし意識して、**がんばったね！**

と「努力しているプロセス」をほめてみる。すると「努力し続ける子」に育ちます。これはむしろ、「ほめる」というよりも「認める」ということでしょう。

英語で表せば、「very good (とてもよい)」ではなく「good enough (これでよい)」になります。ひとつひとつのプロセスを大切にする姿勢を育みたいものです。



★しかり方:「人格」ではなく「行動」をしかる

「ほめ方としかり方」。これはコインの裏表の関係にも似ていますが、原則は同じです。

悪い事をしたのでしかるとします。英語でいえば「Bad!」。しかし問題はその前にどんな言葉が省略されているかです。



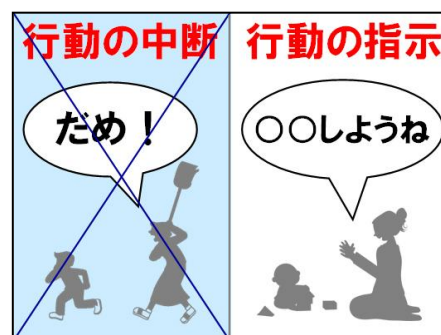
You are bad.はいただけません。人格(存在)の否定につながります。行動をしかるべきです。人と人との関係は基本的信頼感が大切なのです。

その上で行動をしかると「間違いを教えてくれたんだ(ありがとう)」となります。



★「中断」ではなく「うながす」

子どもが小さなうちは、行動の中断よりも新しく行動を起こす方が簡単にできます。言葉で行動を中断させようとしても、コントロールがうまくいかないのです。



行動を起こすこと(go!)は3、4歳でもできるようになりますが、行動を中断すること(stop!)は難しいのです。

例えば、スイッチなどを「押しちゃダメ!」というとき、

「押しちゃダメ!」=「押す」+「いけない」

という2つの意味が重なっています。理解しづらいのです。だから小さなうちは「中断ではなくうながす!」ということになります。

(×)押しちゃだめ!

(○)これで遊ぼうか!

今度お子さんにお試してください。(終)